

招聘講師 清水靖久氏（九州大学教授）

論 題 丸山眞男と米國

本報告の課題は、丸山眞男の米國觀の分析を通じて、丸山の思想に新たな光をあて、その推移を明らかにすることである。丸山に対する米國の影響が無視しえないことは、これまでもしばしば指摘されている。報告者は、この点に加えて、米國に関する丸山の発言や態度は、日本における丸山の位置や自己認識、そして「日本觀」を映し出す鏡としても把握できるという立場から、さまざまな時点における丸山の米國觀と、その時期に日本国内で丸山が置かれていた状況とを突きあわせるというアプローチを採用することによって、上述の課題に取り組んでいる。こうした方法自体に、本報告の大きな特色が見いだされる。

第Ⅰ章「米國ビザ問題」、第Ⅲ章「海外亡命」および第Ⅳ章「その後」前半部分では、実現しなかったものも含めて、数度の米國行に関する米國や丸山眞男文庫などでの調査の結果判明した事実が、丸山の米國觀を規定した要因として提示される。その間に挟まれた第Ⅱ章「米國の不可解さ」と、第Ⅳ章の後半部分では、既刊のテキストから米國に関する丸山の発言や米國での体験談が抜き出され、丸山の米國觀の特徴と変遷がまとめられている。

さまざまな一次史料から丸山の行動の軌跡を解明することによって、丸山の思想理解に新しい局面を切りひらくこうとする報告者の試み

は、丸山研究の進展にとって、一つの重要な方向を指し示している。本報告に接した者（山辺）としては、以上のようにして明らかにされた丸山の行動やそれへの意味付与と、丸山の思想とを橋渡しし、丸山が書きのこしたテキストの内容理解に生かしていくことが、今後必要になるのではないかと感じた。

（文責…山辺春彦）